

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 11 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23560762

研究課題名(和文) 伝統民家継承に関する手法研究 - 理念と技術伝承を通じた共通認識涵養をめざして -

研究課題名(英文) A Basic study on approaches to inheritance of traditional houses Minka. -For the purpose of fostering a common understanding through the vision and workshop-

研究代表者

大野 敏 (ONO, SATOSHI)

横浜国立大学・都市イノベーション研究院・教授

研究者番号：20311665

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：伝統的木造建築(特に民家)に関する講座、修復技術学習会、修復設計、などを試行し「所有者はじめ一般市民・行政・建築家・技能者などが民家に対して歴史的にも建築文化的にも十分な理解と尊敬を抱き、その存続に真摯に向き合う共通認識の涵養」を試行した。特に2011年東日本震災後は「身近な歴史的建造物の維持継承に向けた人材」確保の重要性が明確となり本研究の意義も再確認できた。このことはヘリテージマネージャ講演機会が大きく拡大したこと、被災地で修復技術体験学習会や修復設計に関与したこと、などに強く示されている。また、研究期間中に、選定保存技術団体から技能者養成に対する講演以来を受けたことも貴重な機会となった。

研究成果の概要(英文)：To maintain traditional wooden building (mainly MINKA), it is not enough only rely on the existing cultural properties protection measures. In this study, by the following methods, I have gone the interest evocation of architects and citizens about the inheritance of traditional houses (mainly MINKA).

1) Through lectures for citizens, I gave lectures in easy-to-understand information about maintenance methods and Highlights of traditional architecture. 2) Through lectures for architects, I gave lectures about the restoration techniques and the Highlights of traditional architecture. 3) Practicing workshops, such as hatched techniques in IWATE, wall clay making in IBARAGI, maintenance of the old villa with thatched roofs in KANAGAWA, and architectural research of a MINKA in KANAGAWA. 4) Planning a restoration program for a Minka damaged in 2011 earthquake in Miyagi Prefecture, 5) Making a document to each of the above activities. And some of them were published in papers or booklets.

研究分野：建築史

キーワード：修復体験 伝統的木造建築 伝統建築工法 修復保存技術の継承 伝統民家 茅葺き

1. 研究開始当初の背景

本研究の課題意識は、奈良文化財研究所の特別研究『木造建造物の保存修復のあり方と手法』(1999～2003年)において研究代表者が住宅研究グループ長を務め、文化財施策による伝統的民家(以下民家と呼ぶ)の保存修復実績を包括的に検証し、今後の保存修復に対する提言をおこなったことにはじまる。この特別研究において研究代表者は『木造建造物の保存修復のあり方と手法 中間報告』、『重要文化財民家修復資料』(いずれも奈良文化財研究所 2003年)、『木造建造物の保存修復のあり方と手法 提言』(奈良文化財研究所 2006年)の執筆・編集に関わった。そこで強く感じたのは、「本来すまいであるものを、文化遺産的価値を付加して存続させることの難しさ」である。

この課題解決のためには、所有者をはじめ地域の人達、行政、民家修復にたずさわる建築家・職人、民家に興味を持つ市民・建築家、専門家などが民家に対して歴史的にも建築文化的にも十分な理解と尊敬の念を持ち、その存続に関して真摯に向き合う共通認識の涵養が必須である。そしてこの「民家継承に対する共通認識の涵養」は、文化財の範疇のみならず民家全体の継承に際しても適用でき、伝統的住宅文化継承の普及に貢献しうる概念である。

ただし重要な概念であっても、いかに敷衍するかが問題である。実際は、文化財保存施策を受ける場合と無指定の場合、所有形態(個人所有か公有か)、伝統的建造物群保存地区や野外博物館など集団で維持施策を行う場合と単体で存続する場合、大がかりな修理における技術上の問題、日常の維持管理に関する技術上の問題、すまい方や公開活用に関する問題、民家の地域的特徴、など様々な状況や要素があり、一元的に結論づけられるものではない。

研究代表者は、先述の『木造建造物の保存修復のあり方と手法』において、「民家継承に対する共通認識の涵養」、そのためのネットワークづくり、ネットワークの核としての野外博物館への期待、を指摘した。そして2003年以後、下記の具体的活動を試行してきた。

1)2003年以來、重要文化財民家の個人所有者の組織「全国重文民家の集い」と交流を持ち、2006年から例会にオブザーバー参加を認められた。この会は2008年にNPO法人化を果たし、住宅の維持管理・公開活用・後継者などの諸問題について年1回重文民家を持ち回り会場にして例会を開催している。近年は特に日常維持管理問題と後継者問題が大きな課題となっている。

2)2004年から神奈川県津久井郡藤野町(現在相模原市)において、地域のまちづくり組織「ふじの里山くらぶ」と連携して養蚕民家・土蔵等の歴史的資産を活かしたまちづくり活動を行っている。ここでは古民家ツアー

「藤野の魅力再発見」や土蔵修復体験「里山普請プロジェクト」を通して、町内外に民家保存継承の重要性を啓蒙している。

3)2005年～2008年に藤沢市内の長屋門保存問題に関わった。建物は存続できたが本来の名主屋敷景観は区画整理により消滅した。移築保存事業に際し、本来の土地の重要性、存続させる理由、長屋門建築と伝統技術(木工・左官・茅葺きなど)の魅力、を市民に伝えるべく、合計6回の現場公開を企画実施し、見学用のカラー冊子も作成した。さらに伝統技術への関心喚起のため茅葺き模型を作成して好評を得た。また、土間叩きや左官工事の体験による関心喚起も有効だった。

4)2005年日本建築学会大会歴史意匠部門パネルディスカッション「民家研究の50年」において「民家継承に対する共通認識の涵養」の必要性を説いた。次いで2006年日本建築学会大会において関東支部歴史意匠専門研究委員会主査として研究協議会を主導し、全国の市町村に対し「登録文化財制度への認識」と「登録制度を活かすために建築学会と連携することの可能性」についてアンケートを実施した(回収率約50%、907件)。ここでは、地方公共団体の文化財担当といえども多くは建築文化遺産に対する専門的知識は持っていないこと、専門家からの適切な助言や技術援助があれば認識が大きく変わりうること、しかしその機会が少ないこと、などが明らかとなった。

5)2006～2008年度科研「野外博物館を核とした民家保存技術の継承・公開に関する基礎的研究」にて、全国民家野外博物館における展示民家維持管理状況を確認し、民家保存に関する技術情報拠点(核)となりうる野外博物館を把握し、実現に向けた基礎的条件を考察した。その結果、北海道・東北・関東・東海・北陸・近畿・中国四国・九州に拠点となりうる野外博物館が1カ所以上存在するが、これらの施設が拠点となるためには外部支援が不可欠であること、が明確となった。そして拠点化実現に最も近い川崎市立日本民家園において先行事例を開拓する必要性を確信した。また、主要野外博物館交流組織「全国文化財集落施設協議会」に2009年度以後オブザーバー参加が認められた。さらに、申請者は2009年から川崎市立日本民家園の園長諮問組織「民家園協議会」委員を委嘱され、園の運営に助言・指導する立場となった。

6)神奈川県は、相模湾沿岸を中心に多数存在する別荘建築存続を主目標に、地域の伝統的建築資産を適切に評価しその存続活用手法を提案できる人材養成に着手し、「邸園(歴史的建造物)保全活用推進員」養成講座を2008年に試行した。研究代表者はこの試行の企画相談および理論・技術研修の一部を委嘱され、「民家継承に対する共通認識の涵養」を説き、技術研修の場として川崎市立日本民家園の協力を得た。すなわち民家の継承に関わる行政・市民・専門家が野外博物館に集い、

共通認識を学習する機会を実現した。2009年度以後正規の養成講座が開始されたが、講座内容・技術研修の実際はまだ試行的要素が強く、今後カリキュラムと教材の検証と実質化が望まれる。

7) 2009年10月、重要伝統的建造物群保存地区の連絡協議会が毎年一回会場持ち回りで実施している「技術研修会」講師に招かれた。そこで科研費成果報告書「野外博物館を核とした民家保存技術の継承・公開に関する基礎的研究」を教材として使用し、「民家継承に対する共通認識の涵養」の基本理念と技術継承や公開の実例について紹介し共感を得た。研究代表者も「民家継承に関する情報・技術拠点として、野外博物館と並んで伝建地区が重要である」という認識を強く抱いた

2. 研究の目的

日本における伝統的民家の継承、そのことを真に実現するためには、所有者をはじめ地域の人達、行政、民家修復にたずさわる建築家・職人、民家に興味を持つ市民・建築家、専門家などが民家に対して歴史的にも建築文化的にも十分な理解と尊敬の念を持ち、その存続に関して真摯に向き合う共通認識の涵養が必須である。本研究は「民家継承に対する共通認識の涵養」の実現に向けた理論と技術の双方における基礎的資料を蓄積・整理して提示することを研究目的とする。

3. 研究の方法

研究方法は、基礎的情報整理と保存技術ネットワーク化の2つの視点を基本とし、研究期間は前半2年・後半2年の計4カ年と設定した。すなわち、前半2年は、従来の調査研究実績を「民家継承に対する共通認識涵養」に向けて統合・再整理し、川崎市立日本民家園・神奈川県等との連携により人材養成研修や伝統技術の公開を通じて教材としての有効性を検証する。あわせて全国的な重文民家・野外博物館・重伝建地区との情報交流において前記成果を公表し、検証範囲を拡大する。活動は研究論文・冊子・講演会等で公開を図る。後半2年は前半の活動を引き継ぐと共に、関東地区を中心に具体的な地域ネットワークの構築を目指して、シンポジウムや技術研究会を開催する。そしてこれらの成果を「民家継承に対する共通認識」基礎指針として成果報告書にまとめ、全国的ネットワークへ向けた礎を築くことを目指す。

なお、2011年3月の東日本震災は伝統的民家を含む歴史的建造物に対しても広範囲で大きな被害をもたらした。研究代表者も茨城県と宮城県において歴史的建造物の被害調査に参画した。その中で、被害調査時における復旧の可否判断、修復計画立案能力の重要性を強く感じた。また、震災をうけて建築士会が主導するヘリテージマネージャ講習会も全国的なネットワーク構築に向けて動き

を早め、日本建築家協会保存部会も「修復塾」を開催して歴史的建造物の保存継承に向けた積極的な関わりが目立ってきた。そのため、研究期間の前半2年は、伝統的木造建造物の震災被害調査と、それに関連する技術的啓蒙活動にも多くの時間を割き、後半2年においても震災被害調査からの教訓を講演に還元することや震災復旧の具体的計画立案などに時間を割いた。

4. 研究成果

1) 建築家向け技術講習会における成果

2011年に以前から関わっていた神奈川県ヘリテージマネージャ養成講習会において、伝統民家の保存継承手法の基礎概念から具体的な調査手法まで、倫理観の重要性を含めて講演と実習を行った(2011~2014まで計9回)。また、群馬県で2012年度から始まったヘリテージマネージャ養成講習会において伝統民家の保存継承手法の基礎概念から具体的な調査手法まで、倫理観の重要性を含めて講演し、長屋門の修復設計例も提供した(2012~2014まで計3回)。

こうしたヘリテージマネージャ養成講習会における講演機会は、茨城県(2012、2014に各1回)、和歌山(2013、2014の2回)、富山(2014の計2回)、滋賀(2014に計3回)と研究期間中に大幅な拡がりを見せ、それぞれにおいて、伝統民家の保存継承手法の基礎概念から具体的な調査手法まで、倫理観の重要性を含めて講演した。なお2012年度以降の講演会は、震災被害の教訓(被害の特徴や日常の維持管理が重要であることなど)を講演内容に含める事に努めた。また、講演内容においても和歌山県の講習会では震災被害対応手法(調査や復旧)についての具体的な説明を求められ、茨城県の2014年の講習会は震災復旧中の酒蔵における土壁下地造り実習とともに土蔵構造の特質や被害調査の要点に関する説明が求められ、滋賀県の講習会では日常の建物管理における破損把握(調査)の具体的事例説明や資史料調査の重要性への言及が求められたりした。そのために研究代表者としても、求められている事象の多様性と具体像が把握できて参考となった。

また、震災被害に関連して文化財ドクター制度が創設(文化庁・日本建築学会・日本建築家協会の連携による)されたが、これを契機に建築家協会保存部会は震災調査や復旧対応に向けた講習会「修復塾」を2012年から立ち上げ、研究代表者も歴史的建造物被害に対する破損調査と修復設計の要点について講演を行った(2012)。しかし具体的な修復設計の手法解説となると、個々の建物の詳細な仕様と現状把握、敷地の把握、建築の具体的価値と所有者の意向、などのすべてを勘案した上で、どのような修復方法を選択するかを含めて計画立案と積算を行うのが基本であり、安易に解説可能なものではない。ただし、震災復旧などのような場合は、いくつか

のパターン毎に類型化した修復設計事例の提示などは必要であろうし、この点は今後の課題である。

さらに2012年に、国選定保存技術保持団体である全国社寺屋根保存会主催の茅葺土養成講習会において、伝統技術としての茅葺の仕組みや多様性、技能者としての調査能力・積算能力、および技術者倫理などについて講演を求められ、2014年まで継続した。その教材作成において、茅葺きの原理(家形はにわに見る茅葺き表現や土葺き・板葺き・瓦葺きなどとの差異)、茅葺きの特色(地域文化そのものともいえる個性)、工事企画・積算施工上の諸注意などを再整理したほか、2013年以降は岩手県洋野町で実施した芝棟茅葺き講習会記録も教材として採用した。

2) 市民向け啓蒙活動の成果

民家を中心とする伝統木造建築の魅力と維持継承の重要性を説いた講演として次のように行った。

川崎市立日本民家園講座において、古民家の魅力と野外博物館で民家を保存活用することの重要性を解説した(2011~2014まで計4回)

横須賀市民大学において、主に関東大震災における横須賀社寺建築の彼我と復旧における特徴を解説するとともに、鎌倉から移築された常福寺本堂の数奇な遍歴の調査過程を説明して関心喚起に努めた、(2011~2014まで講座と見学会合計12回)

ヨコハマヘリテイジ主催の茅葺き修理現場見学会において、現場解説と共に茅葺き工法に関する講演も行い、理論を学んだ上で現物を残す重要性の同時啓蒙に努めた(2012)

ヨコハマヘリテイジ主催のオープンヘリテイジ保土ヶ谷宿において講師を務め、本陣軽部家や旅籠本金子屋の建築的特徴を解説するとともに、宿場に存在する寺院(大仙寺)の山門・本堂の歴史的価値を指摘し、地域内の歴史的資産を総合的に把握する必要性を説いた(2013)。

川崎市文化財の長弘寺本堂文化財公開行事に関連して、長弘寺本堂の改修履歴の特徴を講演した。すなわち調査の結果、現本堂は平成14年の大修理以外に2度の大がかりな補強・補修工事履歴があり、関東大震災と幕末地震において大被害を受けながら維持してきた経緯が明らかとなった。その維持手法における工夫点について解説した。(2014)

要文化財千葉家住宅の保存管理に向けた組織「千葉家を守る会」の第1回勉強会において講演し、千葉家住宅主屋の改造状況と復原形について解説すると共に、修復後の活用も視野に入れて保存会の人たちも修復事業に積極的に関与していく事の重要性を説いた。(2014)

3) 市民協働によって地域の歴史的資産を発見・顕彰する活動

2004年から2011年まで神奈川県旧津久井郡藤野町において地域づくり団体と連携して行ってきた「藤野の魅力再発見」活動は、相模原市の強い協力を得て2012年~2014年の市民協働事業「藤野の歴史的建造物めぐり」に採択となった。この活動の中に、従来の活動経験を還元し、さらに不足分を補って「藤野の建造物めぐり」冊子を作成するとともに、地域内の案内看板制作指導、古民家見学ツアーの企画監修と資料作成、などを行い、実際の古民家調査は、学生演習も援用して、行政と地域団体関係者の講習会的要素も含めた。(2012~2014の調査実績29件)

4) 修復技術に関する体験学習会の成果

ワークショップを通じた伝統的木造建築の維持修理技術に対する関心喚起については下記の4件を主導または監修協力して実施した。参加対象は建築家や行政関係者だけでなく広く一般からも参加を呼びかけた。

岩手県洋野町において茅葺き技術の伝承について講習会を企画・監修し、地元の元茅葺き親方を講師に招き芝棟茅葺きの技術を教えてもらい、原寸模型を制作するとともに、その技法を記録した。(2012年に延べ3回6日間、参加者延べ約75名)なお、一年後に芝棟の定着具合を確認後に解体し、材料の茅は茅葺き屋根所有者に補修材として提供した(2013に確認調査1回)

茨城県桜川市真壁において壁土づくり講習会を開催した。実施場所は2011年の震災で被害を受けた歴史的町並地区内の古民家中庭を提供してもらった。講習会の合間に被害実態や修復方法などの見学も含めて勉強した。(2012年に延べ4回4日間 参加者延べ80名下準備含む)

神奈川県相模原市において、伝統民家の調査方法に関する講習会を行った。この活動は市民協働による活動の一環として「ガイド養成講座」として発案されたものでもあったが、建築ガイドをする上で当該建物の現状形式と歴史的経緯を肌身で感じる経験が必要であると判断して、敢えて一般市民向けに調査手法講座を提案した。ここでは平面実測の方法と痕跡調査の手法について、当該建物に即して教材を作成した。(2013に1回、参加者30名)

神奈川県横須賀市において、茅葺き屋根を持つ旧別荘の維持に関して、ボランティアによる維持修理を計画した市川茂氏に協力して定期講習会を監修し、記録を継続している(2013~延べ24回 参加者延べ約300名)

5) 古民家修復設計支援

2012年に震災被害調査に関わった宮城県村田町において、具体的な震災復興に協力することも研究目的に合致するため、2013年に2度ほど現地を訪れ地元の意向を確認した。その結果、重伝建選定後の2014年に修復計画1件に協力した。その修復設計にあたって

は、まず建築破損調査と主に家の歴史的調査を行い、敷地と建物の変遷を知ること、修理方針は家の履歴把握と今後の展望（町並景観のなかで自家を捉える）ことの重要性、などを所有者や行政に示した。また、計画が煮詰まってきた段階においては、施工予定者に対しても現地でも説明を行い、設計者・施工者・所有者・行政の相互理解をはかることの重要性も示した。以上の内容は、従来建築家向けの講習会で解説してきた、倫理観まで含めた修復設計の基本理念を具体的に示す事例ともなった。したがってその修理企画の経緯と作成資料全体が今後の教材としても有効となる。なお、基本設計の中間報告的な様相は、日本建築学会民家小委員会が 2014 年度に村田町で開催した公開勉強会「新たな重伝建地区・村田 ～各地の取り組みからまなぶ～」において発表した。

6) 上記活動における教材作成と公開

上記 1)～5)の活動については、いずれも教材となる資料を作成して参加者に配布した。また、芝棟茅葺きと壁土づくりの体験学習会については冊子体の記録を作成し、芝棟茅葺きの技術に関しては国材学会での論文発表と公開を行った。それ以外にも論文発表や著書で発表を行ったが、具体的には「5. 主な発表論文等」を参照して欲しい。

7) 総括

以上、建築家や専門技能者向けの講習会、市民向けの伝統民家講座、伝統的木造建築修復技術に関する体験学習会、具体的な修復設計、など様々な機会を通じて「民家継承に対する共通認識の涵養」すなわち「所有者をはじめ地域の人達、行政、民家修復にたずさわる建築家・職人、民家に興味を持つ市民・専門家などが民家に対して歴史的にも建築文化的にも十分な理解と尊敬の念を持ち、その存続に関して真摯に向き合う共通認識の涵養」に対して、一定の役割を果たしたものと考える。特に 2011 年の東日本震災後に改めて「身近な歴史的建造物の維持継承に向けたアドバイスできる人材」確保が重要であることが認識される中で、本研究の必要性も明確となった。このことはヘリテージマネージャ講習会などにおける講演が研究期間中に大きく拡大したこと、被災地で修復技術体験学習会を開催できたこと、被災地での修復設計に関与したこと、などに強く示されている。また、研究期間中に、選定保存技術団体から技能者養成に対する講演以来を受けたことも貴重な機会となった。

一方、具体的な事例を通じた講座内容は、それなりに高い評価を得たと自負しているが、受講者からは「自分の関わっている伝統的民家などの調査や修理設計にすぐに適用可能なマニュアル」の希望を強く感じた。建物自体がカスタムメイドで、履歴・破損状況・敷地環境・所有者や行政の意向、など様々な要因が複雑に係る修復設計は、安易にマニュアル化することは危険である。その一方で、その危険さをふまえた上で、一定のバ

ターン別の指針は必要であろう。現実に基本的指針を示す資料もいくつか発表されている。したがって今後は、従来の会津堂をさらに広げる中で、具体的な修復設計に直接利用可能な資料作成にも意を注いでいきたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計7件)

大野敏,「幸区南加瀬 長弘寺本堂背面の構造補強履歴と背面壁修理」(査読無),『川崎市文化財調査集録』、第 49 集、pp.30-57、2014 年 10 月、川崎市教育委員会

ONO Satoshi, YAMADA Yukimasa
'A report of turf ridge (shibamune) in Japanese thatched folk houses' (査読付)
The International Conference on Vernacular Heritage and Earthen Architecture CIAV2013 | 7^o ATP | VerSus, 2013 年 10 月, pp.289-294.

YAMADA Yukimasa ,HIRATA Osamu
ONO Satoshi ,
'Japanese Dozo-structured buildings damaged by the 2011 Tohoku 's Earthquake '(査読付),The International Conference on Vernacular Heritage and Earthen Architecture CIAV2013 | 7^o ATP | VerSus ,2013 年 10 月 ,pp.677-682,

大野敏,「新たに指定された文化財の紹介 - 安藤家長屋門」(査読無),『川崎市文化財調査収録 48』,川崎市教育委員会 ,2013 年 7 月 , pp.37 ~ 50 ,

大野敏・林大祐・野原卓,『掘立柱を有する曲り屋・小村勝広家主屋の変遷過程と建築的特徴 岩手県九戸郡洋野町の芝棟茅葺民家に関する研究(2)』(査読付),日本建築学会関東支部『2011 年度関東支部審査付研究報告集 7』, 177-180 頁, 2012 年 6 月

大野敏・林大祐・野原卓,「地束を有する荒巻信一郎家主屋の変遷過程と建築的特徴 岩手県九戸郡洋野町の芝棟茅葺民家に関する研究(3)」(査読付),日本建築学会関東支部『2011 年度関東支部審査付研究報告集 7』, 181-184 頁, 2012 年 6 月

林大祐・大野敏・野原卓,「岩手県九戸郡洋野町に所在する芝棟茅葺民家の残存状況について 岩手県九戸郡洋野町の芝棟茅葺民家に関する研究(1)」(査読付),日本建築学会関東支部『2011 年度関東支部審査付研究報告集 7』, 173-176 頁,

2012年6月

〔学会発表〕(計4件)

大野敏,「災害と民家 まとめ」,2012年度日本建築学会大会 建築歴史意匠研究協議会「災害と民家」,2012年9月

ONO Satoshi, YAMADA Yukimasa
'A report of turf ridge (shibamune) in Japanese thatched folk houses' (査読付)
The International Conference on Vernacular Heritage and Earthen Architecture CIAV2013 | 7^o ATP | VerSus, 2013年10月

大野敏・林大祐・野原卓「掘立柱を有する曲り屋・小村勝広家主屋の変遷過程と建築的特徴 岩手県九戸郡洋野町の芝棟茅葺民家に関する研究(2)」,2011年度日本建築学会関東支部研究報告,2012年3月

大野敏・林大祐・野原卓「地束を有する荒巻信一郎家主屋の変遷過程と建築的特徴 岩手県九戸郡洋野町の芝棟茅葺民家に関する研究(3)」,2011年度日本建築学会関東支部研究報告,2012年3月

〔図書〕(計5件)

大野敏,『相模原市文化財調査報告書 国登録有形文化財 中村家住宅主屋旧三階部材確認調査報告書』,相模原市教育委員会,2014年3月

大野敏,降矢利保ほか,『藤野の歴史的建造物めぐり【沢井・吉野・日連編】』,藤野の歴史的建造物めぐり協議会・相模原市街づくり支援課,2013年3月

大野敏,遠藤祐希ほか,『伝統的な建築技術に関する講習会記録1「壁土づくり」と「芝棟・茅葺きづくり」』,私家版,2103年2月,28頁

大野敏,黒津高行,高橋政則,菊池誠一ほか,『田島弥平旧宅調査報告書(伊勢崎市文化財資料集5)』,伊勢崎市教育委員会,2012年11月

大野敏,黒津高行,高橋政則ほか,『島村のたてもの 境島村養蚕農家群調査報告書』(伊勢崎市文化財資料集4),伊勢崎市教育委員会,2011年11月

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

解説(計2件)

大野敏,「道とともに伝える歴史的景観 - 鈴木家長屋門 - 」『横浜新聞』30号,2015年2月,1頁

大野敏,「よこはまの原風景へ誘う - 新川家住宅主屋 - 」『横浜新聞』27号,2013年3月,1頁

基調講演(計3件)

大野敏,「神奈川県古民家 - 保存継承手法における横浜市の特徴 - 」,歴史を生かしたまちづくりセミナー「今を生きる古民家の保存と活用」基調講演,2015年2月

大野敏,「岩手県洋野町の芝棟・茅葺民家について ~ 貴重な地域資産をいかに伝承すべきか ~ 」,大分県日田市で開催された全国社寺等屋根技術保存会主催による茅葺き技能者の全国大会「茅葺きフォーラム2012」基調講演,2012年9月

大野敏,「田島弥平旧宅と島村養蚕農家群の特質」,田島弥平旧宅国指定史跡指定記念式典における基調講演,2012年10月

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大野敏(ONO, Satoshi)
横浜国立大学・大学院都市イノベーション研究院・教授
研究者番号:20311665

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

関口欣也(SEKIGUCHI, Kinya)
横浜国立大学・名誉教授
研究者番号:60017895